

名古屋大学名誉教授

大野 信忠

昭和 48 年卒業(第 32 回)



### 最終講義「固体力学研究 40 年余」を思い起こして

本年（2016 年）3 月 1 日に最終講義を名大定年退職のイベントとして行いました。ご参加くださいました方々の多くから好評をいただきましたが、その準備は、大変慌ただしい日程の中で行いました。

最終講義を行うことは、義務ではありませんが、恒例となっています。昨年 11 月末に工学研究科の事務担当者から最終講義の題目、日時、会場に関する問合せメールが送られてきて、自分自身の最終講義について否応なく考えざるを得なくなりました。最終講義の内容は、定年退職する個々の教員によって大きく異なります。筆者の場合、卒業研究以来これまで、固体力学の研究に携わり、また研究を第一としてきました。その結果として、少しは満足できる研究成果が得られましたので、最終講義は「固体力学研究 40 年余」と題して研究成果を中心にお話しすることにしました。12 月 2 日に、この題目を開催日時・場所とともに工学研究科の事務担当者に伝えました。

年が明けて、1 月 3 日から一週間ほど、筆者の 65 歳記念ミニシンポジウムに出席のため国際会議に参加していました。その期間中の 1 月 7 日に、名大教養教育院 OCW 事務室から、最終講義の公開用ビデオ録画の希望調査がメールで送られてきました。そのメールには、ビデオ録画を希望する場合には、使用するパワーポイントを最終講義実施日の 2 週間前までに提出する必要ありと、但し書きされていました。なぜ 2 週間前かとメールで尋ねましたら、著作権チェックのためとの返事が送られてきました。納得して公開用ビデオ録画を希望することにしましたが、パワーポイント提出日まで 1 ヶ月ほどしかないことに少し苛立ちを感じました。

1 月 10 日に帰国後、最終講義の構成と内容について具体的に考え始めましたが、筆者が行った研究の内容は種々であり、まとまりがありません。最終講義で話したいことは研究成果の他にもいろいろとありましたので、考えれば考えるほど収束しなくなり、苛立ちが強くなりました。定年退職のための事務的書類の準備と定年後の仕事場の準備も並行して進めていました。しかも 1 月、2 月は、修士論

文と卒業論文の指導がありますので、大学の教員として1年で最も多忙な時期です。仕方なく、研究成果に関する部分については、昨年の8月に使ったパワーポイントを修正・再構成することにしました。

実は、昨年の8月10～11日に日本機械学会材料力学部門の若手シンポジウムが伊勢で開催され、1時間の招待講演を行いました。筆者のこれまでの研究経験から若手研究者に参考になるようなことを話そうと思い、「私の研究遍歴：クリープ損傷力学から均質化法へ」と題して講演しましたところ、好評を得ました。この副題「クリープ損傷力学から均質化法へ」は、昨年6月にSpringerから出版されました、筆者の65歳記念書籍のタイトルの和訳です。この書籍の前書き部分に筆者の研究業績がまとめられておりましたので、これを分かりやすく紹介するようなパワーポイントを7月に若手シンポジウム用に準備しました。このときは時間に余裕がありましたので、準備に十分な時間をかけることができました。

最終講義の題目にも副題「クリープ損傷力学から均質化法へ」を付けることにし、1月22日に工学研究科の事務担当者に題目の修正を依頼し、承認を得ました。このようなドタバタがありましたが、最終講義の2週間前までにパワーポイントをOCW事務室に提出することができました。著作権チェックの結果、修正が必要な箇所はないとの連絡があり、安堵しました。その後、パワーポイントの微修正を何回か行いました。

3月1日に「固体力学研究40年余：クリープ損傷力学から均質化法へ」と題して最終講義を行いました。学外から106名、学内から89名の方々にご参加いただき、会場（工学研究科241講義室）はほぼ満席となりました。興味をもって聴いていただけたと思っています。ご参加くださいました皆様と、準備・実施のため協力してくれました研究室スタッフに改めて深甚の謝意を表します。なお、最終講義のビデオは名大のホームページ

[http://ocw.nagoya-u.jp/index.php?lang=ja&mode=c&id=534&page\\_type=materials](http://ocw.nagoya-u.jp/index.php?lang=ja&mode=c&id=534&page_type=materials)

で公開されています。